

インフルエンザウイルス感染症

主に冬に大流行する呼吸器の感染症で、多くは自然に治癒しますが、気管支炎や肺炎、中耳炎、脳炎・脳症を起こすことがある病気です。発熱は 3～5 日続くことが多く、小児の場合はいったん解熱した後、数日後に再び発熱する2峰性の経過をとることもあります。

[症状] ①高熱(B型では微熱のことも多い) ②だるさ ③頭痛

④咳、鼻水、のどの痛み ⑤嘔吐・腹痛(B型に多い) ⑥関節痛・筋肉痛 など

[合併症] 脳炎・脳症:発症は発熱 2 日以内が多い、日本では年間 200～300 名が発症

★けいれん、呼びかけてもぼんやりしている、異常行動など → 直ちに受診!

肺炎、中耳炎など 呼吸が苦しそう、耳を痛がる時は再受診を。

[診断] 症状、診察所見、流行状況から診断します。迅速診断検査は発熱 6～12時間で約 70～80%が陽性になりますが、迅速検査は診断に必須ではありません。

[治療] 自然経過で治ることがほとんどです(が、つらい思いをする場合があります)。

抗ウイルス薬(タミフル、イナビルなど)は発熱後 48 時間以内の治療開始で、1～2日早く熱を下げる効果があります。

妊婦や授乳中の母親にも抗インフルエンザ薬は使用できます。

[ケアのポイント]

① 水分を充分とって、自宅で安静にし、お子さんから目を離さないように。

異常行動などは発症 2 日以内に起こります。部屋の施錠、ベランダのある部屋に寝かさないなどの対策を立てましょう。抗インフルエンザ薬と異常行動に関しては因果関係がなく、インフルエンザそのものの影響と考えられています。

② 38.5℃以上が目安で、ぐったりしているようなら解熱剤のアセトアミノフェン(カロナール、アルピニーなど)を使用してもかまいません。解熱しても様子がおかしい時は受診を。

③ アセトアミノフェン以外の解熱剤の使用は控えてください。

④ 家庭内の感染防止に、室内の加湿と、適度な換気を忘れずに!

[登校・登園の日安]

発熱した翌日から数えて 5 日を経過、かつ解熱後 2 日(幼児は 3 日)

経過したら登校・登園できます。成人は職場の指示に従ってください。

[予防] ★インフルエンザワクチン

生後 6 か月から接種可能、妊娠中も可能、効果は約 5 カ月。

インフルエンザにかかりにくくなり、かかっても重症化しないことで結果的に肺炎や、脳炎・脳症の合併症の予防に効果が期待できます。毎年 10 月～12 月が接種のおすすめ時期ですが、春まで流行することもあり、未接種の方は 1 月から 2 月でも決して遅くはありません。

